

【資料3】

石山公園パークマネジメント運用開始に向けた「コンシェルジュ」ニーズ調査 / NPO 法人 ENNOVA OKAYAMA

意見交換会

※カルチャーゾーン連絡協議会会議参加（12/13 岡山城会議室）

9月～11月のニーズ調査実施期間中、カルチャーゾーン連絡協議会参加の13の施設から、期間中に予定されている展示やイベントなどのチラシや施設のパンフレットなどを提供いただき、石山公園に設置した案内ブースにて観光客や地域の方などに情報発信を行った。



■情報提供の協力（カルチャーゾーン連絡協議会参加施設）

県立博物館、県立美術館、県立図書館、後楽園、岡山城、夢二郷土美術館、林原美術館、オリエント美術館
天神山文化プラザ、シンフォニーホール、ルネスホール、市民会館、岡山映像ライブラリーセンター

議題：石山公園（回遊の起点）と、各施設との連動（情報の扱い方）について

1) 出石からの回遊性の創出

現状) ・車の方は、後楽園を起点としたルート
・歩きの方は、鶴見橋を起点としたルート

※目的地以外の場所への動機づけと、回遊ルートの提案などがカギ

2) 情報発信の方法

・デジタル（多言語）対応
・地図（文化施設など）などの連携、連動

※各文化施設で制作している、展示やイベント情報の紙媒体は、すべてを集めると膨大な量になる。

それらの情報を上手く発信するには、紙媒体以外に、メディアを活用した発信が有効。

各施設独自の情報をひとつにまとめて発信し、受け手が欲しい情報をピックアップしやすくする工夫が必要

3) 観光客への対応

・短いスパンでの情報発信

※観光客が現地でも必要としている情報は、「今日、明日」のような、短いスパンでのリアルタイムの情報。

滞在期間中に、観光客のスケジュールに上手く「新規追加」で予定を組み込めるよう、「今、何をやっているか」

という情報を発信する必要がある。

4) 常設での情報発信場所

出石の観光案内所が閉鎖したため、現在はカルチャーゾーン内に観光案内所と呼べる施設はない。

常設でパンフレットやチラシを設置できる場所があれば、現地での情報発信がしやすくなるとともに、各施設も配布計画を立てやすくなる。（紙媒体の情報の受発信もしやすくなる）